

うわ むかい おん びら い せき
上向B・扇平遺跡
発掘調査報告書

(概 報)

平成18年度上向B遺跡ほか岡谷市内発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

序

岡谷市は諏訪湖の北西部に位置し、鉢伏山高ボッチを背景に横河川や中小河川の形成する扇状地、塚間川西岸に南北に長い段丘、諏訪湖西側および天竜川両岸には山塊が迫り、釜口水門から天竜川が流れ出ています。このような自然環境にある岡谷市には縄文時代をはじめ、弥生、古墳、奈良、平安、中近世にわたり数多くの遺跡が存在し、約 200 箇所以上の遺跡が知られています。こうした歴史的環境にあって、開発に伴う埋蔵文化財の調査は毎年多くの件数に上り、貴重な成果を記録にのこすとともに、出土品の保存に努めてまいりました。

さて、本年度の調査件数は 15 件に及び、多くの成果を得ることができました。ここに「上向 B・扇平遺跡他報告書（概報）」を刊行いたします。埋蔵文化財の保護は土地所有者、事業者他の皆様のご理解とご協力により行われています。これらの発掘調査で得られた成果を公開していくことで、より多くの方々に文化財の大切さを知っていただけることと思います。今後、この報告書が多くの皆様に活用されることを願っております。

最後になりましたが、今年度の調査にあたり、ご理解とご協力をいただきました土地所有者と事業主の皆様には感謝申し上げます。また、発掘調査に携わっていただいた皆さんには、炎暑、厳冬の中をご苦労いただきましたことにお礼を申し上げます。

平成 19 年 3 月

岡谷市教育委員会

教育長 北澤 和男

例 言

1. 本報告書は、上向B・扇平遺跡他報告書（概報）である。
2. 事業は、国の平成18年度国宝重要文化財等保存整備費補助金を受けて岡谷市教育委員会が実施した。
3. 調査は、国の補助金交付を受けた岡谷市教育委員会が、平成18年4月1日から平成19年3月20日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月に行ったが十分な整理が終了していないため概要の掲載にとどめてある。
4. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は岡谷市教育委員会が保管している。
5. 本報告書中の原稿執筆は、扇平・上向B遺跡を山田武文、その他を宮坂昌代が行い、全体の編集・作図は事務局が行った。

目 次

序
例言
目次

1. 平成18年度試掘・確認調査の概要	1
2. 扇平遺跡	3
3. 上向B遺跡	6
4. 平成18年度概報その他本年度調査の遺跡	8

1. 平成 18 年度試掘・確認調査の概要

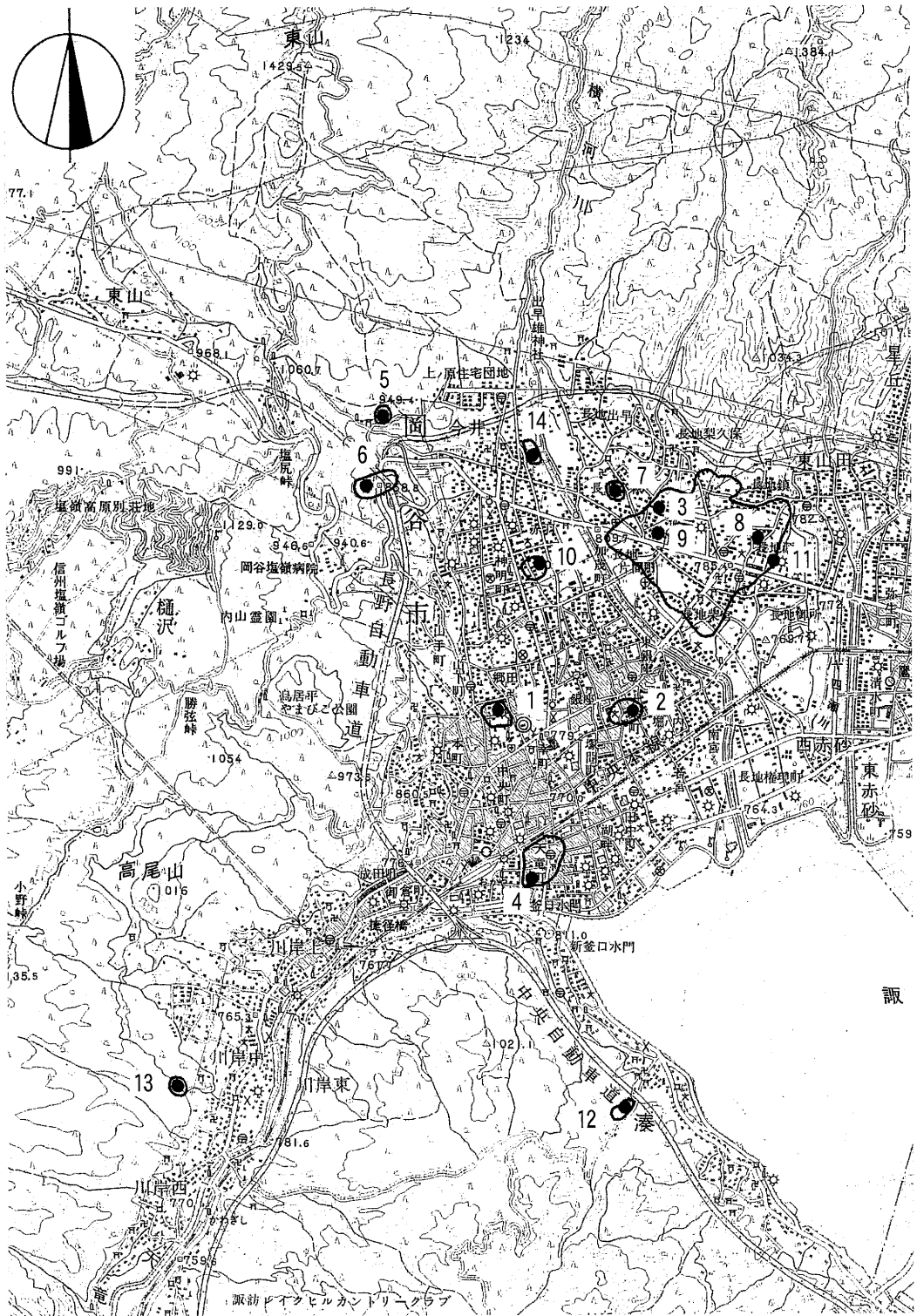
本年度、岡谷市内の周知の遺跡において、農地転用、公共事業等の開発が計画・実施され、岡谷市教育委員会が対応した件数は 15 件、発掘調査を実施したのは 1 件 1 遺跡である。長地地区が 6 件 40%を占め、残りは市内全域に散在する。

今年度は 7 月に豪雨による土砂災害が発生し、復旧事業に伴う調査が行われた。多くの人命を失ったことを考えると、今後このような調査のないことを祈るだけである。

年度も押し詰まった時期に、上向 B 遺跡の調査において「コハク」垂飾が発見された。「諏訪史一」にも玉造りの遺跡と紹介され、コハクの産出が遠隔地であることなどを考えるとき、上向遺跡の理解に重要な資料となろう。

第 1 表 平成 18 年度試掘・確認調査発掘一覧表

No.	調査期間	遺跡名	所在地	調査の原因	主な遺構	遺構遺物の時代
1	H18・4・7	外畝	山下町1-19-2673-1	住宅建設		
2	4・17～19	紺屋垣外	東銀座1-8-19	住宅建設		
3	5・24	榎垣外	長地4799-9	住宅建設		
4	6・5	海戸	天竜町3-2-16	住宅建設		
5	7・12	深沢	今井1943-1ほか	資材置場		
6	7・31	柳海途	今井1454-イ	駐車場		
7	8・2	権現堂	長地小萩1-16-4872ほか	集合住宅		
8	8・31	榎垣外	長地源1-4-3094-1	集合住宅		
9	9・5	榎垣外	長地小萩3-2-2756-1	住宅建設		
10	9・22	横道上	赤羽1-7-7579-2ほか	住宅建設		
11	11・6	榎垣外	長地3229	集合住宅		
12	H19・1・25	若宮	湊 小田井沢	道路拡幅		縄文
13	2・26	新倉長塚	川岸 大洞沢	河川改修		
14	2・27～	上向 B	長地6227-8ほか	住宅建設		縄文
15	3・8	榎垣外	長地梨久保1-6-7	住宅建設		



第1図 試掘・確認発掘調査地点(番号は第1表の一覧表に同じ)(1:50,000)

2. 扇平遺跡

発掘調査の場所 岡谷市長地出早二丁目 5748 - 1 外

発掘調査の期間 平成 17 年 12 月 14 日

～平成 18 年 1 月 20 日

調査の原因 宅地造成

調査面積 67㎡

発見された遺構 縄文時代敷石住居跡 1 棟

小竪穴 2 基

発見された遺物 縄文時代一括土器 1、石鏃 3、石錐 1、
打製石斧 1、磨石 2、石皿 2、石棒 1、
石錘 3、磨製石斧 1、砥石 1、土製
円板 3、土器片、石片ほか 5 箱

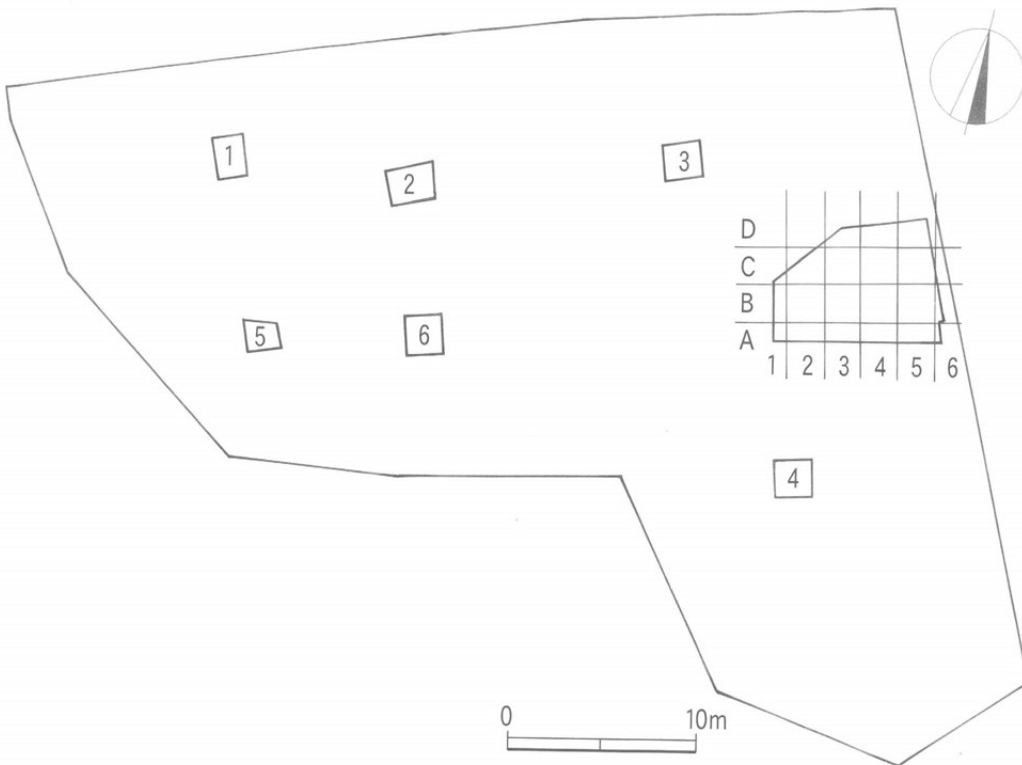
扇平遺跡は、岡谷市の北部長地山塊の裾にあり、西に横河川が流れる。長久保沢のつくる小扇状地の西縁辺に広がり、横河川の浸蝕による涯錐下までをその範



第 2 図 扇平遺跡全景



第 3 図 25 住居址



第 4 図 扇平遺跡全体図 (1:200)

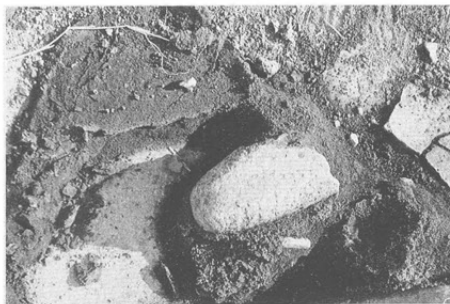
冢としている。

昭和46年市立上の原小学校建設に伴う発掘調査では、縄文時代中期初頭の集落が発見され、住居跡とその周辺にある小竪穴の分析を通して、「扇平型」を提唱している。

今回の調査は、涯錐下の平坦地において行われ、縄文時代後期の敷石住居跡1棟と小竪穴2基を発見した。近年、後期の生活の跡が河川敷や水辺に発見され、また、住居址が低地に見つかるなど、「水の近く」が注目されているところである。本項では発見された敷石住居跡について記述するにとどめるが、調査成果については詳細な検討がなされ、また、市内にある該期の遺跡の様相などを考え合わせる中で、後期の姿が明らかになると期待する。

25号住居址

調査地の東辺中央に検出された住居跡で、涯錐直下にある。耕作土下に今井・長地山麓に共通して見られる俗称「カツ1」層があり縄文時代後期の遺物を包含する。当地でも後期の遺物がこ



第5図 石棒



第6図 25住居址実測図 (1:40)

の層中から出土し、包含層を掘り進むとほぼ同じ高さに石が検出され、掘り広げたとこ東西約4mの範囲に敷石が見つかり、24号住居址とした。ここに至るまで住居跡と考えられる落ち込みは確認できず、頭突に敷石の発見となり壁は見つかっていない。敷石には小は長さ約10cm～大は約80cmの河原転石を平坦面を上にして使用されていた。市内の敷石住居で河原転石を使用している例はほとんどなく、新たな発見となった。河原転石の敷石は、舌形をし、東縁辺からは南北にそれぞれ列石が延びている。さらに24住の東には鉄平石を使った敷石が発見され、25号住居址とした。この敷石住居の東側は用地外で調査できなかった。25住にも住居の落ち込みはなく、セクションにも壁は見られない。



第7図 一括土器

この2棟の敷石ははじめ別のもと思われたが、24住に炉がなく、形状も舌形であることから、25住の柄部ではないかと考えた。県内の類例をあたったところ、北村遺跡や聖石遺跡に同様の形をもつ敷石の報告があり、本址もその類であると捉えた。

前述のように、柄部は東西約4m、東辺も4mで舌形を呈する。東辺からは南と北西方向に列石が延び、さらに続くと思われる。舌形柄部の西2mに779Pがあり、東0.8mに25住主体の鉄平石敷石がある。柄部と主体部の間には通路のような踏み石があってつながる。

25住主体は検出状態で南北約4.8m東西1.5mを測る。大小の鉄平石を組み合わせ、隙間に小石をはめ込みつくられている。全面検出されていないが、多角形を呈すると思われる、柄部より20～30cm高く敷石されている。

列石は各々約5m見られ、一部石が積み重ねられている。この列石を含めて25住と考えている。

出土土器のほとんどは、縄文時代後期前葉に属し、その前後の時期の土器片もごくわずか見られる。後期前葉のⅠ・Ⅱ期が混在している。後期中葉初期が後期初頭より多く見られ、これらから本址は、後期前葉Ⅱ期と考えられる。

3. 上向 B 遺跡

発掘調査の場所 岡谷市長地 6227 - 8

発掘調査の期間 平成 19 年 2 月 27 日
～ 3 月 20 日

調査の原因 個人住宅

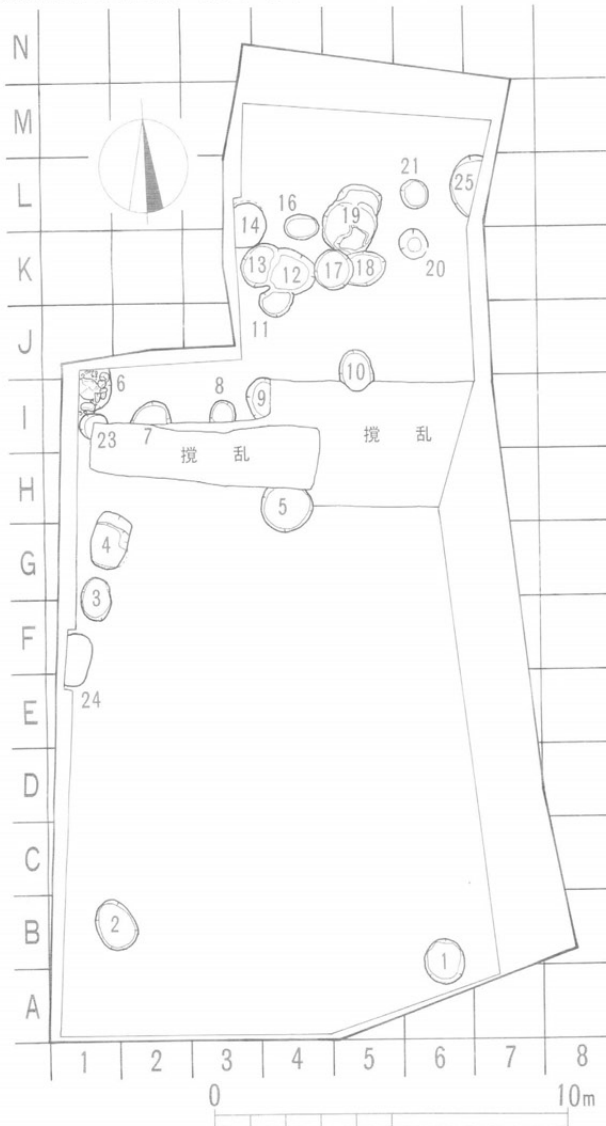
調査面積 338㎡

発見された遺構 縄文時代小竪穴 23 基

発見された遺物 縄文時代 コハク垂飾 3、ヒスイ垂飾 1、石鏃 3、打製石斧 1、土器片、石片



第 8 図 上向 B 遺跡全景図



第 9 図 上向 B 遺跡遺構全体図 (1:100)

上向 B 遺跡は横河川西岸の河岸段丘状の台地丘陵上にあり、北に隣接して上向 A 遺跡がある。上向 A・B 遺跡を合わせると、南北約 630 m 東西最大約 180 m という広大な面積をもち、丘陵上の東縁を占め、上向 B 遺跡は、その南半に南北約 270 m 東西約 120 m の範囲をもつ。上向遺跡（今の上向 A 遺跡に当たる）は、「諏訪史一巻」において「玉造り」「石錘」などが注目され、また、縄文時代中期の馬高式土器の出土も記載され、遠隔地との関りを示している。

昭和 56 年以降、まとまった調査が数次にわたって行われ、近年は 20 号バイパスに伴って大規模な発掘が行われ報告されている。そこから当地が縄文時代早期から後期に至る複合遺跡であり、大まかに 20 号バイパスを境に北側には早期・中期初頭～中葉の遺構遺物が多く、南側に中期後葉の遺構遺物が多く見られ、後期は全体に散在している状況が看取される。

調査の概要

今回の調査は上向 B 遺跡の南東縁辺にあたり、東を横河川が流れる。昭和 62 年に北西に隣接する場所が発掘調査され、縄文時代中期後葉の住居址 4 棟と小竪穴 24 基が発見されている。

調査地は水田造成時にローム層が削られ平坦地になり、ローム層上の耕作土も 20～30cm と薄く、東縁は横河川に向い急傾斜して落ち込む。耕作土中の遺物はごく



第 10 図 13P コハク出土状態

少なく、時期を特定できる土器片は少ないが、縄文時代中期後葉に所属すると思われる。

遺構は小竪穴だけで 23 基を数え北側に集中する。南側には東西それぞれの隅付近に 1P、2P があり、それ以外は北側に南西～北東へタスキ状に見られる。が、H、I 列東西に幅 1.5 m の溝（ごく近年の所産）が掘られ、小竪穴が壊されていると思われ、この溝の埋土中からヒスイの垂飾り（3.3 × 1.9cm）が出土している。

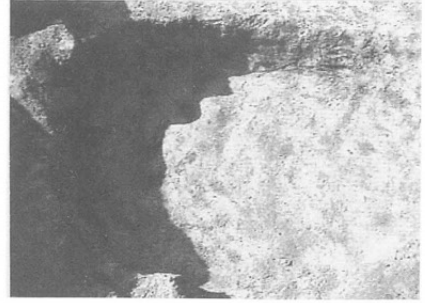
北側の小竪穴群中の 13P からコハクの垂飾りが発見された。口径約 85 × 70cm、深さ 20cm ほどの小竪穴で、埋土中上端から約 10cm の深さから出土し、壙底からは約 10cm 高い位置である。



第 11 図 出土したコハク・ヒスイ

コハク垂飾りは 4.1 × 3.3cmの半円形を呈し、厚さ 2.0 cmを測る。本品は完形で中央部を穿孔している。他に壊れてはいるがコハクの垂飾りが 2 個出土し、穿孔の痕がある。

前項で「玉造り」の遺跡として注目されていたと記したが、これらコハクやヒスイは近くに産出せず、ヒスイは新潟県姫川産と思われ、コハクは千葉県銚子が一番近い産地である。このことは、遠隔地から運ばれて

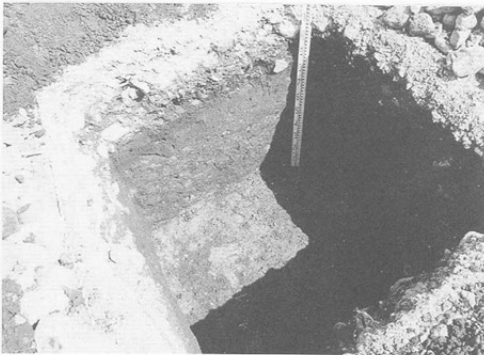


第 12 図 2P

来たことを意味し交流があった証拠である。遠隔地からの来訪は、ここへ何かを求めてきたと考えられ、それは黒耀石に他ならないのではないだろうか。梨久保・清水田遺跡が黒耀石の集散拠点遺跡であるように、当地もその性格を有していたのではないだろうか。また、梨久保遺跡と同じ時期に並存していた可能性もあり、相関関係にも興味があるところである。

4. 平成 18 年度概報その他本年度調査の遺跡

1. 外畝遺跡



第 13 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市山下町 1 - 19 - 2673 - 1

発掘調査の期間 平成 18 年 4 月 7 日

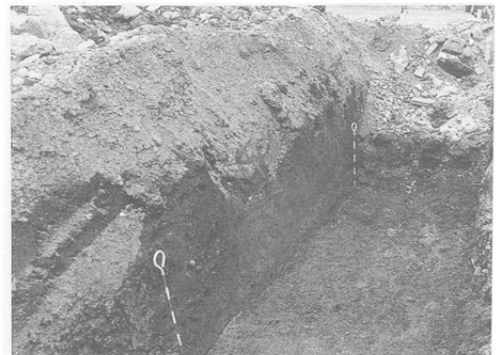
調査の原因 住宅建設

調査面積 8 m²

発見された遺構 なし

発見された遺物 なし

2. 紺屋垣外遺跡



第 14 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市東銀座 1 - 8 - 19

発掘調査の期間 平成 18 年 4 月 17 日～ 19 日

調査の原因 住宅建設

調査面積 15 m²

発見された遺構 なし

発見された遺物 なし

3. 榎垣外遺跡



第 15 図 試掘作業

発掘調査の場所 岡谷市長地 4799 - 9
発掘調査の期間 平成 18 年 5 月 24 日
調査の原因 住宅建設
調査面積 8 m²
発見された遺構 なし
発見された遺物 なし

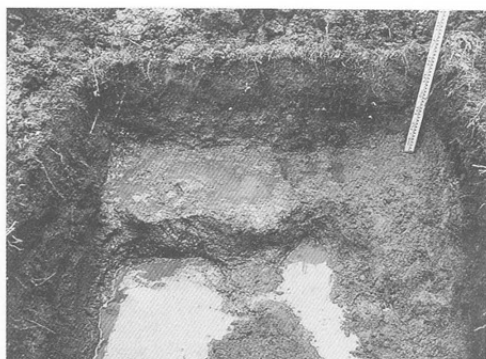
4. 海戸遺跡



第 16 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市天竜町 3 - 2 - 16
発掘調査の期間 平成 18 年 6 月 5 日
調査の原因 住宅建設
調査面積 8 m²
発見された遺構 なし
発見された遺物 なし

5. 深沢遺跡



第 17 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市今井 1943 - 1 ほか
発掘調査の期間 平成 18 年 7 月 12 日
調査の原因 資材置場
調査面積 12 m²
発掘された遺構 なし
発掘された遺物 なし

6. 柳海途遺跡



第 18 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市今井 1454 - イ
発掘調査の期間 平成 18 年 7 月 31 日
調査の原因 駐車場
調査面積 6 m²
発掘された遺構 なし
発掘された遺物 なし

7. 権現堂遺跡



第 19 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市長地小萩 1 - 16 - 4872 ほか
発掘調査の期間 平成 18 年 8 月 2 日
調査の原因 集合住宅
調査面積 8 m²
発掘された遺構 なし
発掘された遺物 なし

8. 榎垣外遺跡



第 20 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市長地源 1 - 4 - 3094 - 1
発掘調査の期間 平成 18 年 8 月 31 日
調査の原因 集合住宅
調査面積 8 m²
発掘された遺構 なし
発掘された遺物 なし

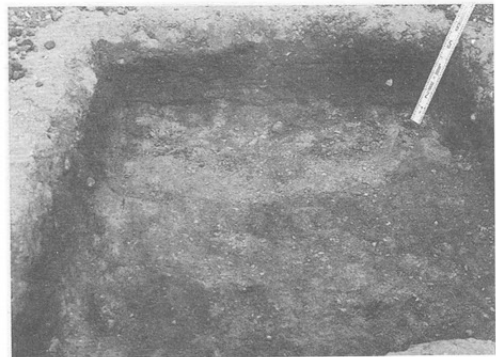
9. 榎垣外遺跡



第 21 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市長地小萩 3 - 2 - 2756 - 1
発掘調査の期間 平成 18 年 9 月 5 日
調査の原因 住宅建設
調査面積 12 m²
発掘された遺構 なし
発掘された遺物 なし

10. 横道上遺跡



第 22 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市赤羽 1 - 7 - 7579 - 2 ほか
発掘調査の期間 平成 18 年 9 月 30 日
調査の原因 住宅建設
調査面積 8 m²
発掘された遺構 なし
発掘された遺物 なし

11. 榎垣外遺跡



第 23 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市長地 3229
発掘調査の期間 平成 18 年 11 月 6 日
調査の原因 集合住宅
調査面積 14 m²
発見された遺構 なし
発見された遺物 なし

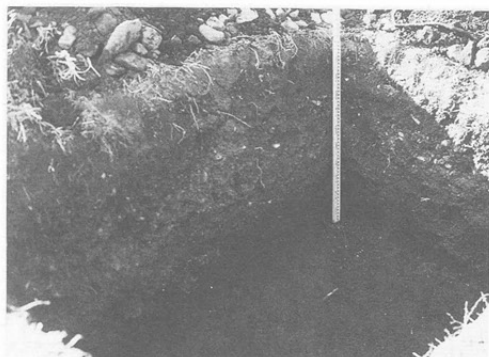
12. 若宮遺跡



第 24 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市湊 小田井沢
発掘調査の期間 平成 19 年 1 月 25 日
調査の原因 道路拡幅
調査面積 28 m²
発見された遺構 なし
発見された遺物 なし

13. 新倉長塚遺跡



第 25 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市川岸 大洞沢
発掘調査の期間 平成 19 年 2 月 26 日
調査の原因 河川改修
調査面積 5 m²
発掘された遺構 なし
発掘された遺物 なし

14. 榎垣外遺跡



第 26 図 試掘溝完掘図

発掘調査の場所 岡谷市長地梨久保 1-6-7
発掘調査の期間 平成 19 年 3 月 8 日
調査の原因 住宅建設
調査面積 6 m²
発掘された遺構 なし
発掘された遺物 なし

報告書抄録

ふりがな	うわむかいびー・おんびらいせき							
書名	上向B・扇平遺跡発掘調査報告書(概報)							
副書名	平成 18 年度上向B遺跡ほか岡谷市内発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	長野県岡谷市教育委員会							
編集機関	長野県岡谷市教育委員会							
所在地	〒394-8510 長野県岡谷市幸町8-1 TEL 0266-23-4811							
発行年月日	西暦 2007 年 3 月 20 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うわむかい 上向B	ながのけん おかやし 長野県 岡谷市 おさち 長地	20204	109B	36°	138°	20070227	338.0	個人住宅建設
				5' 8"	2' 58"	~ 20070319		
おんびら 扇平	ながのけん おかやし 長野県 岡谷市 おさちいずは 長地出早	20204	113	36°	138°	20051214	67.0	個人住宅建設
				5' 27"	3' 5"	~ 20060120		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上向B	集落	縄文	縄文時代小竪穴 23		コハク垂飾 4 ヒスイ垂飾 2			
扇平	集落	縄文	縄文時代住居跡 1 縄文時代小竪穴 2		縄文時代一括土器 1 石鏃 3			